

| | | | |
|---------------|--|-------|-------|
| 派遣者番号 | R6K13 | 氏名 | 佐竹 泰斗 |
| 研究主題 —副主題— | 体育授業における教師の記述的フィードバック「朱書き」に関する研究 —学習者の捉え方に焦点をあてて— | | |
| 派遣先大学 | 東京学芸大学 大学院 | 指導担当者 | 高橋 宏文 |
| 所属 | 町田市立忠生第三小学校 | 所属長 | 山本 正則 |

キーワード：体育 フィードバック 朱書き 教師行動

要旨： 本研究の目的は、体育授業において、教師が学習者の振り返り記述に対して行う記述的フィードバックである「朱書き」がもつ機能を、教師の意図と朱書きの意味、学習者の捉え方を明らかにすることを通して提示することである。

結果、学習者の振り返り記述を受け取った教師は、「記述の解釈」や「授業の取り組みや実態を踏まえた解釈」といった思考する段階を経て、学習者それぞれに対して、意図をもって朱書きを行っていることが明らかとなった。

学習者は、教師の朱書きを肯定的に捉えており、中でも「思考を促す」意味をもつ朱書きが特に重要であると認識していた。一方で、教師の朱書きが意図通りに受け取られていないこともあり、教師の意図と学習者の捉え方は必ずしも一致しているとは限らないことが明らかとなり、より具体性をもった朱書きを行うことの重要性が示唆された。

体育授業における教師の記述的フィードバック「朱書き」に関する研究 —学習者の捉え方に焦点をあてて—

佐竹 泰斗

1. 研究の目的

教師が体育の学習中に行う教師行動は、①直接指導、②マネジメント、③観察、④相互作用の四つに分類される。中でも、学習者の授業評価に優位に関係するのは相互作用のみであることが、先行研究から明らかにされている。相互作用とは、教師と学習者の間で情報交換がなされる行動であり、具体的には、発問、受理、フィードバック、励ましなどがあり、とりわけフィードバックが学習者に与える影響は大きく、その重要性が明らかにされてきている。

一方で、授業中に行うフィードバックには、「学習者一人一人に行き届いていない」「フィードバックとして受け取られていない」といった指摘もあり、教師が学習者の振り返り記述に対して行う記述的フィードバックである「朱書き」が、その欠点を補う可能性があると考えられている。そこで本研究では、朱書きの意味やそこに含まれる教師の意図、そしてそれを受け取る学習者の捉え方を明らかにすることで、朱書きの機能を提示することを目的とし、以下の研究論点（リサーチクエスション；RQ）を設定した。

- RQ I：教師の朱書きにはどのような意味があり、どのような意図が含まれているのか。
RQ II：教師の意図に沿った朱書きにはどのようなものがあるのか。
RQ III：学習者は教師の朱書きをどのように捉えているのか。

2. 研究の方法

本研究は、体育の授業において、日常的に学習者に対して記述的フィードバックを行っている小学校教師1名と、その学級に在籍する児童6名を対象とし、研究対象者の語りから得られるテキストデータと学習カードに記述された教師の朱書きを収集し、分析するものである。なお児童のデータについては、正確なデータが得られた4名のものを使用した。

研究方法は、修正版グランデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)を採用し、RQ Iでは、教師へのインタビュー調査で得られたテキストデータをもとにセマティック分析を行い、コード化、カテゴリー化、整合化の手順で分析を行い、教師の記述的フィードバックの意図に関しての考察を行った。RQ IIでは、RQ Iで得られた朱書きの意味をもとに実際の朱書きを分析し、検討した。RQ IIIでは、朱書きを受け取った学習者がどのように感じているのかについて、インタビュー内容を分析することによって検討した。

3. 結果と考察

●RQ I：「教師の朱書きにはどのような意味があり、どのような意図が含まれているのか。」について
分析の結果、表1に示す通り6カテゴリー12テーマが生成され、「教師の思考」

表1 各カテゴリーとテーマの関係

| 教師の思考 | | | |
|-------------|-------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| カテゴリー | テーマ (ラベル) | 定義 (説明) | |
| ① 記述の解釈 | 学習状況の把握 | 学習者の記述から学んだことや理解度、考えたことや思いを読み取ること。 | |
| | 変容の把握 | 学習者の記述から、学びに対する変化を見取ること。 | |
| | 自身のフィードバックの省察 | 学習者の記述から自身のフィードバックの内容について振り返ること。 | |
| ② その他 | 授業の取り組みや実態を踏まえた解釈 | 児童の実態や授業の取り組みの様子について考えること。 | |
| 朱書き意味と教師の意図 | | | |
| カテゴリー | 意味のあるまとまり区分 | テーマ (ラベル) | 定義 (説明) |
| ① 思考を促す | | 新たな課題提示 | 次の学習につながる課題を提示すること。 |
| | | 理解を深める | 学習したことや理解が深まるようにすること。 |
| ② 動機付け | 自信の獲得 | 活動への意欲付け | 次の活動を行う意欲を高められるようにすること。 |
| | | 記述内容に対する賞賛・価値付け | 学習カードに記述された内容に対して賞賛したり価値付けたりすること。 |
| | | 授業の取り組みに対する賞賛・価値付け | 授業中の気付きや取り組みの様子に対して賞賛したり価値付けたりすること。 |
| ③ 修正・矯正 | | 活動の軌道修正 | 学習に取り組み時の視点を与え、活動の方向付けをすること。 |
| ④ その他 | | 学習カードの書き方の修正 | 学習カードを書く時のヒントになる視点を与えること。 |
| | | 共感・寄り添い | 学習者の気持ちを受け止め、認めようとすること。 |

2 カテゴリー4 テーマ、「朱書きの意味と教師の意図」4 カテゴリー8 テーマの二つに区分された。

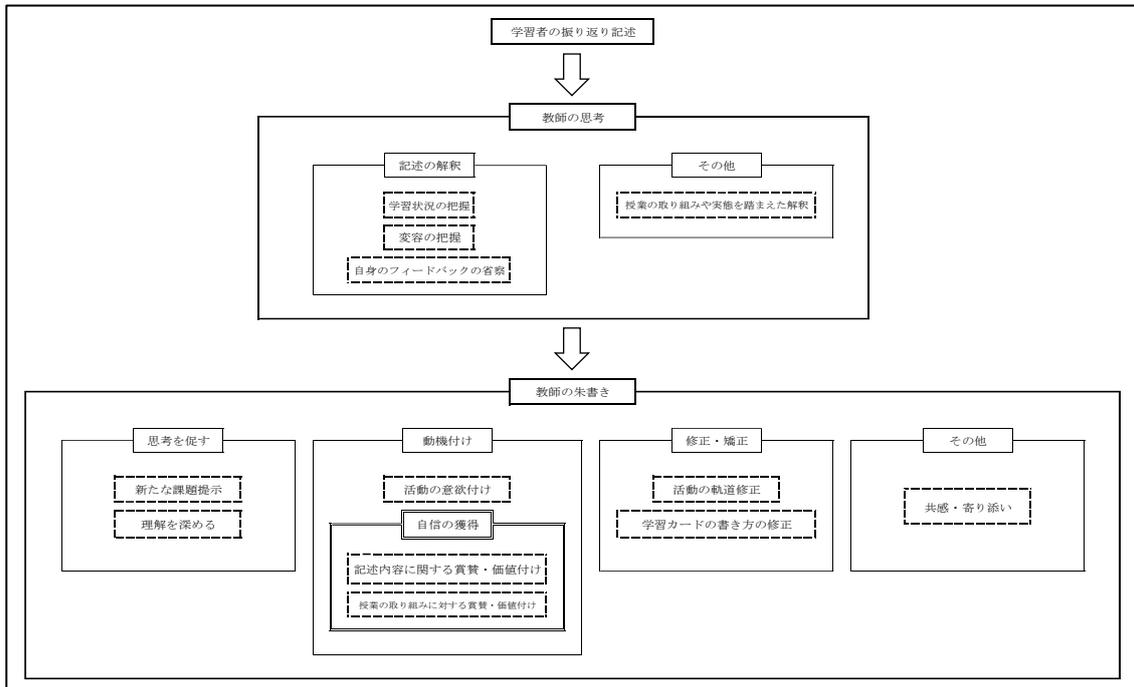


図1 全カテゴリーとテーマの相関図

さらに、図1をもとに各カテゴリーとテーマの関連性を見ていくと、学習者の振り返り記述を受け取った教師は、「記述の解釈」や「授業の取り組みや実態を踏まえた解釈」といった思考する段階を経て、学習者それぞれに対して、意図をもって朱書きを行っていることが考えられる。

●RQⅡ：「教師の意図に沿った朱書きにはどのようなものがあるのか。」について

教師はほとんど全ての時間において、複数の意味が含まれる朱書きを行っていた。「動機付け」や「その他（共感・寄り添い）」の朱書きは単元前半、「思考を促す」意味をもつ朱書きは単元後半に多く見られたことから、単元前半は学習者の意欲を高めることに重きを置き、単元が進むにつれて学習させたい内容について、深く考えさせたいという意図をもってフィードバックを行っていたことが示唆された。

●RQⅢ：「学習者は教師の朱書きをどのように捉えているのか。」について

学習者は、どの意味の朱書きも肯定的に捉えてはいるものの、「思考を促す」意味をもった朱書きが学習内容に直接関係するものとして認識しており、非常に重要だと捉えていた。

一方で、教師の意図から四つの意味に分類されたこれらの朱書きは、学習者の視点で見ると、教師が「思考を促す」つもりで与えた朱書きが「動機付け」になっていたり、「動機付け」の意味をもった朱書きが結果として「思考を促す」ことにつながったりしていたことから、明確に区別して捉えられていないと考えられる。以上のことから、教師の朱書きは必ずしもその意図通り受け取られているとは限らず、それを受け取った学習者がどのように捉えているかによって、朱書きのもつ意味は変わってくるということが示唆された。

4. 本研究における成果と課題

本研究が行ってきた、実際の学習者の振り返り記述とそれに対する教師の朱書きの関係を分析することは、教師の朱書きの機能について直接的に迫るもので非常に興味深い結果を得ることができたと考えられる。しかし、本研究は1名の教師と学習者4名を対象とした調査を行っており、量的な側面から検討した研究ではなく、事例研究的な面が強い。今後は、今回の対象者とは異なる経験年数を有する教師や異なる学年の学習者を対象にするなど、より多角的に検討を行ったり、量的な側面から検討を加えたりする必要があると考えられる。

5. 主な参考文献

- ①高橋健夫（2003） 体育授業を観察評価する 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント 明和出版、pp.49-56
- ②高橋健夫・岡沢祥訓・中井隆司（1989） 教師の「相互作用」行動が児童の学習行動及び授業成果に及ぼす影響について 体育学研究、34(3) : pp.191-200
- ③鈴木智香子（2005）体育授業におけるフィードバックの機能について～教師の記述的フィードバック「朱書き」に着目して～ 愛知教育大学大学院教育学科研究修士論文